

中小企業地域資源
活用促進法に基づく



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

わが市町村の
ふるさと名物は
これ!

北海道沼田町
が応援するふるさと名物

「輝け雪のまち沼田町」の雪中商品
～雪は沼田の宝物～



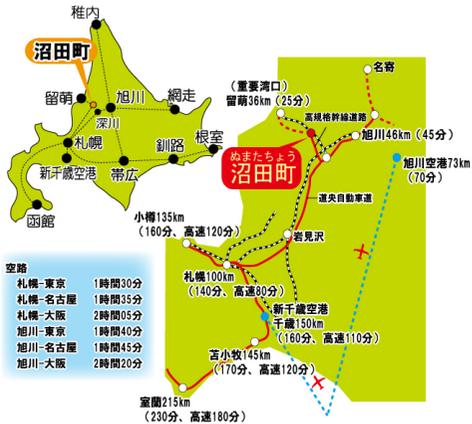


ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言

北海道沼田町

沼田町の プロフィール



北海道沼田町の開拓は明治27年、富山県人沼田喜三郎翁が郷里から18戸の移住を図ったのがはじまりです。

北海道のほぼ中央、広大な石狩平野の北端に位置している沼田町は、面積の約7割を豊富な森林資源を有する山岳地帯が占め、かつては炭鉱と稲作の町として繁栄してきましたが、昭和43年に雨竜炭鉱が閉山し、その後稲作中心の農業の町へと転換しました。

北海道でも有数の豪雪地帯である沼田町は、例年大量に降り積もる「やっかいもの」であった雪を地域資源と捉え、基幹産業である農業にこれを活用出来ないかと考えたことから、農産物の貯蔵や施設の冷房に雪冷熱エネルギーを活用するなど、雪を活用したまちづくりを進めています。

この他にも、平成11年にはNHKの連続テレビ小説「すずらん」のロケ地として全国的に有名となりました。また、毎年7月上旬から幌新地区では、ほたるが美しく飛び交う光景を楽しめる他、8月第4金曜日・土曜日には北海道3大あんどん祭りの一つとして知られる「夜高あんどん祭り」が開催されるなど元気な沼田町を全国へPRしています。



沼田町雪キャラクター

沼田町の地域資源「沼田の雪氷冷熱装置」



地域資源

沼田の雪氷冷熱エネルギー利用システム

～冬に降った雪を保存し夏場のエネルギーとして、
雪冷熱を農産物の貯蔵や施設の冷房として利活用しています～



◆雪利用のきっかけ

例年降り積もる雪は「やっかいもの」にすぎませんでした。この「やっかいもの」を地域資源として何かに活用できないかという発想から、平成8年に世界初の雪冷熱利用による米貯蔵施設「スノークールライスファクトリー」を建設しました。

◆雪の冷気で粳のまま貯蔵した“雪中米”

「スノークールライスファクトリー」では、貯留乾燥ビンに貯蔵された2500トンの米を1500トンの雪で粳のまま貯蔵しています。これにより、真夏に新米と同等の風味を味わえる沼田のブランド米「雪中米」が誕生。全国に出荷し、現在では海外にも輸出されています。



施設に雪を入れる様子



スノークールライスファクトリー（上）
雪中米（左）



◆雪冷熱の更なる活用

「雪中米」の成功をきっかけとして、雪利用の取り組みを本格化、平成14年には「輝け雪のまち宣言」を行い、町民一丸となって雪国ならではのまちづくりを進めています。

現在、雪は町民だけではなく、町外の方など誰もが利用できる冷熱エネルギーとして、公共施設や商店・個人住宅など12カ所で活用されています。

沼田町の地域資源「沼田の雪氷冷熱装置」



地域資源

沼田式雪山センター

～国内唯一の雪供給基地として、町内だけではなく
北海道外にも雪を供給しています～



農産物の貯蔵や特産品開発・施設の冷房など、様々に利活用される「沼田の雪氷冷熱エネルギー利用システム」に雪を供給する「沼田式雪山センター」。真夏のイベントなどでの活用も進んでいます。

◆降り積もる雪を活用する“雪供給基地”

専用の倉庫を設置しないで、大量に降り積もる雪を1カ所に集める雪供給基地としては国内で初めての施設で、冬場は町内に降り積もった雪の捨て場として、夏場は雪利用施設への雪供給基地として活用されています。



◆真夏の雪はいかがですか？

“1トン1000円（輸送費別）”

雪山センターの雪活用は町内にとどまりません。沼田町の雪は1トン1000円で販売され、東京や大阪など北海道外にも運ばれイベントなどでの活用が進んでいます。



バーク材で覆うことで1年中雪が利用可能な「沼田式雪山センター」雪山を重機で切り崩し、ダンプカーなどで雪を供給しています。

沼田町のふるさと名物「雪中商品」



ふるさと名物

雪冷熱を活用した“雪中商品”

～お菓子やみそ・お酒など

様々な商品に雪を活用しています～



「沼田式雪山センター」から運ばれた雪や「雪中米」を利用した商品など、沼田町では雪冷熱を活用した“雪中（せっちゅう）商品”がこれまでに多く誕生し、町の特産物として町内外に販売されています。

沼田町の雪中商品の一例

◆雪んこ焼き

雪中米の米粉を使った和菓子「雪んこ焼き」。モチモチ食感とあんこのほどよい甘さが特徴です。



「雪んこ焼き」

国の地域資源∞全国展開プロジェクト事業を活用。

◆雪中みそ

農家の奥さんグループが、自家栽培の大豆を使い丹精込めて仕込んだみそを雪室の低温の中でじっくりと熟成し、おふくろの味に仕上げた一品です。



「雪中みそ」

昆布だし入り、黒大豆入りの2種類。

◆雪なごり

北海道を代表する大雪山連峰から湧き出る名水を原料に、丹精こめて醸したお酒を、沼田の雪中蔵にゆっくり貯蔵した雪中貯蔵酒「雪なごり」。



「雪なごり」

雪の冷気によりまろやかで旨みがのります。

まちの支援や取り組み



まちの支援や取り組み

～雪の活用・学び・親しみなど

雪との共生を進めています～

まちの取組

今後も雪冷熱の利活用を進めるため、町では地域資源の活用を支援する制度を設けたり、町施設におけるシイタケやイチゴ栽培への雪冷熱活用など、町全体で雪の利活用を推進しています。



◆地域資源活用を支援 “ひと・まち・しごと育成支援事業”

「地域資源」を活用し、地元金融機関から融資を受けて、事業化に取り組む方に対して、施設の改修費や機械購入費などを支援しています。

認定された4施設

◆沼田町の4施設が認定 “雪氷グリーン熱証書”

経済産業省が推進する雪氷エネルギーの持つ環境付加価値を証書化し、取引する仕組みである「雪氷グリーン熱証書」。沼田町の椎茸栽培施設や老人ホームなど4施設が雪氷施設としては全国ではじめて認定されています。



就農支援実習農場椎茸発生棟



就農支援実習農場イチゴ栽培ハウス

◆除雪体制も万全！快適な暮らし！

雪が多い沼田町ですが、きめ細やかな除雪や高齢者の方への住宅除雪費用の助成など、町民が雪に困らない快適な生活を提供しています。また、子ども達にも「雪」について学ぶ授業を実施するなど、雪への理解を深め、雪に親しみを持てるような様々な活動も進めています。



養護老人ホーム和風園



生涯学習総合センター

雪利用の取り組みを進める団体



雪利用を
進める団体

農商工業者や若者が連携した活動

～雪の更なる活用を目指した取り組み～



◆雪冷熱の更なる活用を検討 “沼田町利雪研究会”

利雪に携わる町民や農・商工業の関係者で組織する「沼田町利雪研究会」。行政と民間の連携を更に強化し、雪を活用した新産業の創出、供給用の雪を貯蔵する「沼田式雪山センター」の利用促進などを目指して活動しています。

◆雪のイベントを企画する若者有志 “ゆきものがかり”

商工会青年部や農協青年部、役場青年女性部など町内の若者を中心とした有志が集い、雪などの地域資源を使った様々なイベントを開催しています。

雪は沼田の宝物

～これからも雪の取り組みを進めていきます～



雪山センターを活用して行われた、真夏の雪イベント「雪夏祭」



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

応援宣言



◆北海道沼田町長からのメッセージ

沼田町は、北海道でも有数の豪雪地帯に位置し、冬は白一色に輝きます。降り積もる雪は、単なるやっかいものとして捉えがちですが、その雪溶け水が主幹産業である稲作を支える重要な水源となっています。

更に、平成8年のスノークールライスファクトリー建設をきっかけに雪氷冷熱装置という新たな雪の価値に出会ったことから、雪中米を始めとする雪冷熱を活用した『雪中商品』が誕生し、新しい産業の芽となっています。

沼田町にとって雪は大切な宝物です。夢と希望に満ちた「雪との共生」をより一層推進しながら、雪国ならではのまちづくりを町民一丸となって実現するために、『輝け雪のまち』のふるさと名物として『雪中商品』を応援してまいります。



沼田町長 金平嘉則